

弟子としての生き方 マルコの福音書 9:30~50

1. 受難、十字架、復活の予告

- (1) 何度も繰り返して 「話しておられたからである」
- (2) 弟子には理解できなかった 勝利のメシアと受難のメシア
- (3) 尋ねるのを恐れていた 真実を知ることの期待と恐怖

十字架と復活は後づけの教理ではない

2. 「一番偉いのは誰か」

- (1) クライマックスに近いことを実感
 - ・ エルサレム入城:11章
 - ・ 栄光の場面に立ち会った三人（ペテロ、ヨハネ、ヤコブ）悪霊を追い出せなかった九人
 - ・ 序列を決めておかなければならない、と弟子たちは思っていた
- (2) 恥じ入る弟子たち
 - ・ Pecking Order :人間社会にも(会社、学校、「友人」関係…)
 - ・ キリストにふさわしくない論争

高い地位を願った弟子たち



つつき順のために死闘する鶏

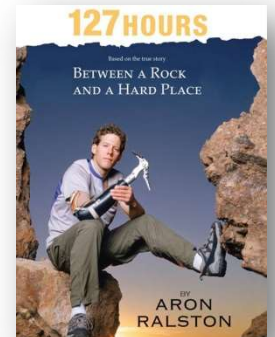
3. 真の「偉大さ」とは

- (1) へりくだり
 - ・ 相手を優先する
 - ・ 「子ども」を尊ぶ
- (2) 広い心
 - ・ 同じ信仰、教派、神学的立場の違い
 - ・ 水一杯でも報いからもれない
- (3) 鋭敏さ
 - ・ 弱い人(敏感な人)をつまづかせないために
 - ・ つまづかせた責任は万死に値する
- (4) 厳しさ(→自分に対して)
 - ・ 手、足、目を失ってでも
 - ・ 私の生活の中で神が喜ばれないもの 「お示ください」 詩篇 139 篇
- (5) 対立ではなく平和をもたらす
 - ・ 「火によって塩づけられる」とは



アルブレヒト・デューラー作 「祈りの手」

自分にはどこまでも厳しく、他の人には最大の理解を示す。必要とあらば自分が泥をかぶる。



片手を切断して助かった人

自分の罪の当然の報いを知ることであり、キリストの十字架の意味を痛みと共に受け止めること(西海満希子[東京聖書学校舎監・牧師])

- ・ 塩の役割
 - A) 土の栄養分を活性化し、雑草の生育を抑制する
 - B) 堆肥に混ぜ、腐敗を一時停止させる

ヨハネ4章(サマリヤの女との会話)
使徒の働き19章(エペソでの説教)



肥料としての塩



NPO 法人 Eve's Angels(エバの天使たち)の創設者、アニー・ダンワルド

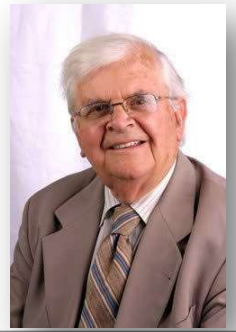
祈り

主よ、私の目にこの人があなたの目に映るのと同じように、かけがえのない存在として映るように助けてください。

あなたはこの人のために死に、この人に友としての交わりを永遠に続けたいと切望なさるほどに、この人を愛しておられます。

あなたの聖霊の助けなくしては、この出会いを意味あるものとする事はできません。

あなたの臨在の中で、他者に親切で、相手の独自性を尊重し、ともに人間であることの神秘に畏怖する者となれるよう、私をお助けください。



ジェイムズ・フーストン
(リージェント・カレッジ初代学長)

**以上は、救われる条件ではない。(もしそうであれば救われる人はいない。)
神の目から見た偉大さとは、という問への答えである。**

福音メッセージ 弟子としての生き方

マルコの福音書 9 章 30 節～50 節 【新改訳改訂第3版】

- 30 さて、一行はそこを去って、ガリラヤを通過して行った。
イエスは、人に知られたくないと思われた。
- 31 それは、イエスは弟子たちを教えて、
「人の子は人々の手に引き渡され、彼らはこれを殺す。
しかし、殺されて、三日の後に、人の子はよみがえる」と話しておられたからである。
- 32 しかし、弟子たちは、このみことばが理解できなかった。
また、イエスに尋ねるのを恐れていた。
- 33 カペナウムに着いた。イエスは、家に入った後、弟子たちに質問された。
「道で何を論じ合っていたのですか。」
- 34 彼らは黙っていた。道々、だれが一番偉いかと論じ合っていたからである。
- 35 イエスはおすわりになり、十二弟子を呼んで、言われた。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなの子のしんがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」
- 36 それから、イエスは、ひとりの子どもを連れて来て、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱き寄せて、彼らに言われた。
- 37 「だれでも、このような幼子たちのひとりを、わたしの名のゆえに受け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」
- 38 ヨハネがイエスに言った。「先生。先生の名を唱えて悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちの仲間ではないので、やめさせました。」
- 39 しかし、イエスは言われた。「やめさせることはありません。わたしの名を唱えて、力あるわざを行いながら、すぐあとで、わたしを悪く言える者はないのです。」
- 40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方です。
- 41 あなたがたがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。
- 42 また、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにもでもつまずきを与えるような者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。
- 43 もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片手でいのちに入るほうが、両手そろっていてゲヘナの消えぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。
- 45 もし、あなたの足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちに入るほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。
- 47 もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすのなら、それをえぐり出しなさい。片目で神の国に入るほうが、両目そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。
- 48 そこでは、彼らを食ううじは、尽きることがなく、火は消えることはありません。
- 49 すべては、火によって、塩けをつけられるのです。
- 50 塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互いに和合して暮らしなさい。」

詩篇 139 篇 1～24 節 【新改訳改訂第3版】

指揮者のために。ダビデの賛歌

- 1 【主】よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。
- 2 あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。
- 3 あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。
- 4 ことばが私の舌にのぼる前に、なんと【主】よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。
- 5 あなたは前からうしろから私を取り囲み、御手を私の上に置かれました。
- 6 そのような知識は私にとってあまりにも不思議、あまりにも高く、及びもつきません。
- 7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。
- 8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。
- 9 私が暁の翼をかって、海の果てに住んでも、
- 10 そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕らえます。
- 11 たとい私が「おお、やみよ。私をおおえ。私の回りの光よ。夜となれ」と言っても、
- 12 あなたにとっては、やみも暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。
- 13 それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。
- 14 私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています。
- 15 私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。
- 16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。
- 17 神よ。あなたの御思いを知るのはなんとむずかしいことでしょう。その総計は、なんと多いことでしょう。
- 18 それを数えようとしても、それは砂よりも数多いのです。私が目ざめるとき、私はなおも、あなたとともにいます。
- 19 神よ。どうか悪者を殺してください。血を流す者どもよ。私から離れて行け。
- 20 彼らはあなたに悪口を言い、あなたの敵は、みだりに御名を口にします。
- 21 【主】よ。私は、あなたを憎む者たちを憎まないでしょうか。私は、あなたに立ち向かう者を忌みきらわないでしょうか。
- 22 私は憎しみの限りを尽くして彼らを憎みます。彼らは私の敵となりました。
- 23 神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。
- 24 私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。